

平成23年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	放課後児童クラブ事業		基本目標	町民等との協働による子育て支援の充実		
担当課(局)・係	健康福祉課	子ども支援係	記入者	濱本 明俊	評価者	井上 敏郎
評価状況	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 評価対象外 ※評価対象外を選択した場合は、その理由を下段から選んでください					
	理由	<input type="checkbox"/> 法定受託事務である <input type="checkbox"/> H24年度以降実施しない <input type="checkbox"/> その他(※下段に理由を記入)				

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を) 町内に居住する小学校3年生までの児童 意図・目的 両親等の保護者が就労していることで、家庭での見守りが出来ない状況にある家庭の代わりを行う。								
事業の内容	学校や幼稚園または保育園で、学校の就業時間後から6時半ごろまで親の代わりに児童を見守る。								
22年度決算額	15,393	千円	23年度予算額	15,276	千円	事業従事者数	H22 0.15 人	H23 0.16 人	
主な支出項目	委託料	15,393	千円	国庫支出金		千円	22年度人件費	1,079	千円
			千円	県支出金	5,892	千円	23年度人件費	1,142	千円
			千円	地方債		千円	23年度予算額における一般財源の割合(H23)	61.4	%
			千円	一般財源	9,384	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください		
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助		補助事業名						
	補助交付団体		補助金要綱						
	22年度	補助額	#N/A	円	補助の形態	#N/A	23年度補助額		円
		団体の決算額	#N/A	円	昨年度までの補助金見直しの状況・検討委員会での決定事項等				
補助の割合		#N/A	%						
	繰越額	#N/A	円						

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 町内の実施施設数	施設利用の要望のある児童を受け入れる施設の設置箇所数を満たす。
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 職員の配置状況	施設の安全性を考慮し、適切な人員を配置された施設
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	21年度	22年度	23年度
成果指標	町内の実施施設数	目標値	5	5	5
		実績値	5	5	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	
活動指標	職員の配置状況	目標値	5	5	5
		実績値	5	5	
		達成率	100.0%	100.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	

事務事業名	放課後児童クラブ事業	担当課(局)	健康福祉課
-------	------------	--------	-------

◎事務事業の評価

		評価する項目	点数	
			自己評価	委員評価
妥(必 当 要 性)	核家族化が進み、共働きの家庭では放課後に家庭において児童を見守ることが出来ないため、仕事の終業時間まで放課後児童クラブで親に代わり児童の見守りを行う必要がある。	◎目的からして町が行うべきか	2	-
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	-
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	-
		◎事業廃止による影響があるのか	2	-
有 効 性	多くの入会希望があり、多くの児童クラブで定員限度の登録がある。	◎目標に対して成果は得られているか	2	-
		◎すでに目的は達成されていないか	1	-
効 率 性	費用については、国県補助基準額を基に算出している。東西小学校については、単独の施設となるために、基準額に町が単独での経費を負担している状況である。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	-
		◎費用対効果が十分に認められるか	2	-
協 働 性		◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	0	-
合計(最高18点)			15	-

※町補助をしている場合のみ記入

(公 益 平 性)		◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		-
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		-
		◎町民の理解が得られる事業であるか		-
合計(最高4点)			0	-
そ の 他				

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総 合 評 価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	必要不可欠な事業であり、現状も満杯である。受け入れ箇所の増設などを検討すべきである。	今後の方向性				
			拡充				○
			現状維持				
			縮小				
			廃止				
				廃止	縮小	現状維持	拡充
				コスト			

事務事業評価委員会 評価欄	事業	拡充	◎必要性の高い事業と考えるが、児童館助成事業等との組み合わせで、委託費等の軽減は出来ないか。 ◎東西小学校で実施中の分について、補助基準に対して町の持ち出し分が多いので、縮減の方策を検討してもらいたい。 ◎利用者もおり、子育て支援の一環として事業は必要である。 ◎急激な利用者の増加は見込まれないことから、児童クラブの箇所数増より空き教室の利用拡大などスペースの確保に努める必要があると考える。
	コスト	現状維持	
	委員評価	-	
	外部評価	-	